

小雨降る10月11日早朝に瀬戸大橋を經由して中国道、鳥取道を北上して12時頃に鳥取市のホテルに着く事が出来ました。駅前からシャトルバスで会場の「とりぎん文化会館」に着き、全国で一番人口の少ない県（56万人）で有りながら、会場は3階席まである立派なホールがあり素晴らしい施設でした。

まだまだ降り続く雨の中、全国から1,617名の法人会会員が集い、物産展やパネル展示を、ゆったりとしたスペースで拝見しながら、徳島市にもこういう施設が出来ると良いなど、開会を待ちました。

第一部は株大山（だいせん）どりの島原道範社長による「大山どりの軌跡～35歳、どん底からの挑戦」という講演でした。弱冠35歳の時に倒産した食鳥生産加工メーカー（社員200名）の社長に外部から抜擢され、普通のサラリーマンからトップになったため、多くの困難に立ち向かい、十数年経った現在は西日本のトップメーカーに成長したお話でした。

第二部の大会式典では来賓の藤井国税庁長官の挨拶を始め、平井鳥取県知事からは「全国の法人会幹部の皆様は余裕のある方ばかりですので、そう急にお帰りにならなくても、ゆっくりと鳥取各地を巡って頂き、宜しければ11月6日にカニ漁が解禁になりますので、その頃までご逗留くださいませ。人口減のわが県ですので、転入届は市役所に行けば簡単に出来ますので、ついでに是非移住して頂ければと思います。」と言われ、大きな笑いを誘っておられました。

また昨年青年部会高知大会で租税教育プレゼンの最優秀賞を獲得された福岡県連・直方法人会青年部会の発表もあり、色々なやり方で着実に各地の租税教育が実践されていることに、勇気を戴きました。

第3部懇親会は鳥取駅前のニューオータニホテルに移動し、海の幸・山の幸と地酒のおもてなしを受けましたが、会場が狭く満員電車の如くに、押し合いへし合い状態でした。地元会員のお接待で来て頂いたのが、全国的にも珍しい女性でありながら青年部会の県連会長でした。エネルギッシュな雰囲気には圧倒される思いでした。

翌日は抜けるような青空で、遠い昔に来た鳥取砂丘に足を延ばし、日本海から吹く風が今回の大会と思い出を心地よく包んでくれました。紅葉は見られませんでした。平井鳥取県知事の言葉通り、11月中旬以降にカニと紅葉を楽しみに、また訪れてみましようか。

因みに来年度は10月3日（木）伊勢路の三重県・津大会となります。

